

保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 古賀貞雄 編集者 西尾 達



「おやつは ななに?」
星の原団地保育園 山上 千鶴子



「見つけたぞっ!!」
はこぞき保育園 高野 聡子



「泥んこ遊び 解禁!!」
北崎保育園 佐藤 浩子



「だいじょうぶよー!」
名島保育園 山口 恭子

こどもの えがお展 より

(10月26日~10月30日
ソラリアプラザ1F ゼファ)



「わあ、かわいい〜♡」
田島保育園 日高 慧美

※市民賞は来場者投票で選ばれました

vol.113

平成28年度 2号

保育士会のページ.....	2
保護者研修会	3
養成校訪問	4
就職フェア.....	5
保育士配置基準弾力化問題	6
新園紹介	7
リレー回想	8

「子ども・子育て新制度の問題点」はユーチューブ(YouTube)でご覧いただけます。
※PCだけでなくi-phone などのスマートフォンからも見る事ができます。

「新制度」の詳しい内容については

[ほいくせいど](#)

[検索](#)

を、クリック!



保育士会のページ

笑顔があふれる保育園

～若草・東青葉・内浜・脇山・しあわせな木保育園～ こどものえがお展出品作品から選び、原稿を依頼しました。

大好きなボールプールを独占して楽しそうに遊んでいた女の子、そこはお気に入りの場所でも邪魔されたくない場所のようでした。そんなことも知らない男の子が傍に行き中に入ろうとしていましたが、あまりにも楽しそうな姿に圧倒されながら恐る恐る「そおーっと」手を伸ばした表情と、ボールに触れた瞬間、安堵から見せる「ニヤリ」と笑う姿がとても微笑ましく見え写真に撮りました。子どもたちが笑顔を見せる瞬間は様々ですが、どの場面を取っても愛おしく、私を癒し元気づけてくれています。子どもたち一人ひとりの笑顔に込められた思いを暖かく見守りながら、これからも子どもたちの笑顔のシーンをたくさん見つけて、写真に残していきたいと思っています。



「ボールいっぱい笑顔」

若草保育園



保育園の園庭には、夏になると沢山の朝顔が咲きます。その落ちた朝顔の花を使って色水遊びをするのが大好きな子ども達。花によって青色になったり薄い紫色になったり濃い紫色になったりします。T君は今まで濃い紫色にならずに友達の色水を羨ましく見ていた事もありました。ある夏の日、色水遊びをする事になりました。「このお花が紫になると？」と友達や先生に尋ねながら「これにしよう」とT君が選んだ朝顔の花は綺麗な紫色の花でした。水を入れても美しいお花をもみもみ。するとついに濃い紫色の色水が出来上がったのです。嬉しくてたまらないT君に「きれいな紫色になったね。よかったわ。」と声を掛けたら「もつもつもつと濃くすよ！」と満面の笑みで答えるT君。一生懸命色を濃くしようともみ続けるT君の姿に私まで嬉しくてほっこりしました。

『むらさきに なりれ』

東青葉保育園



4月の進級から、年長児としての自覚が少しずつ芽生え始めた5月。前年度の年長さんに憧れ、今年も野菜を育てることにしました。絵本を見て家で調べたりして、何を育てるかを話し合ってから水やりの仕方など話し合ってから、全員で苗を買いに行きました。当番を決め、毎日水やりと観察記録をつけました。今年はずっと暑く、日照りが続いたため、時には1日に2回水やりが必要なお日もありましたが、どんなことも楽しみながら取り組む子どもたちでした。「早く大きくなあれ」「おいしく育ちますように」愛情をたっぷり注いだおかげか、毎日のようにたくさん実を結んでくれました。あちこちについている実を、宝物を見つけたかのように大騒ぎしながら、大切に収穫しました。給食に育てた野菜が出た時には、年下のお友達に自慢げに話したり、野菜嫌いの子どもも笑顔で食べていたり。自分たちで育てた野菜の味は特別だったようです。この写真には、ひと夏の子どもの成長のキラキラ輝く思いが詰まっています。

『とったどー!』

内浜保育園



6月、田植え前の「田んぼ泥んこあそび」。年に一度の子どもたちが楽しみにしているあそびの一つです。初めは、おそろおそろ田んぼに足を入れ泥の感触を感じていた子どもたち。しばらくすると、お友だち同士でかっこの開始。もうその頃には、体が泥だらけになっていきます。泥に足をたられ転倒しても笑顔があふれます。泥んこあそびを全身で楽しんで、あそびを展開しています。たくさん体を動かした後は、田んぼの中で横になり少し休憩…。ムツゴロウみたいでかわいい姿を撮った一枚です。

『ムツゴロウみたいでしょ』

脇山保育園



1才児の生活発表会の様子です。私たちの園では、普段の遊びを保護者に見ていただくという主旨で「おゆうぎ会」ではなく「生活発表会」として行います。手が汚れることが苦手な女の子でしたが、夏にした絵の具遊びをきっかけに手が汚れても泣かず、楽しめるようになりました。「じのじのする？」と聞くと「かっちゃんもしたい!!」と答え、計量カップの中に好きな絵の具を入れて、ダイナミックに描いています。顔や足に絵の具がついても気にすることなく、時にはたいたり、大きな紙にのびのびと丸や線を描きます。お正月明けに遊んだ凧（Tシャツの上に着たビニール）を身にまとい、絵の具のしぶきがつかっても無心に描き続けます。手が汚れて泣いていた姿がうそのようで、大きく成長したなど感じる瞬間です。

『小さな巨匠』

しあわせな木保育園

保護者研修会

「子どもに絵本の楽しみを言葉の育ちと読書」開催

「保護者研修会に参加して」

月の子さき保育園 高崎真弓

講師に精華女子短期大学幼児保育学科講師の大谷朝氏をお招きし、「子どもに絵本の楽しみを言葉の育ちと読書」をテーマに、絵本の体験が子どもの育ちにどうつながるのか、読み聞かせをするときに気をつけることは...など子どもと絵本の密接な関係性についてお話を伺いました。

講演の冒頭、「絵本は、身近な大人に読み聞かせてもらうことで初めて意味を持つ。自分で字を読めるようになってからも読んであげましょう」と、「読み聞かせ」ことの大切さを話されました。また、読み聞かせを通じて「身近な人への信頼感」が育まれるだけでなく、「物語の体験」「模倣の体験」「絵の体験」とさまざまな体験ができること、なにより文字を知る前の乳幼児だからこそ「日本語の響きと音の美しさ」を知ることができると、など読み聞かせの多様な側面や読み聞かせが子どもの育ちに与える影響の深さを、柔らかい語り口でお話いただきました。時折交る先生と甥御さんとの楽しいエピソードに共感しながら、あつという間に2時間がたつてしまいました。

参加された保護者の感想です

五十川保育園 保護者 金本 香織

このテーマを見て思った事、それは「いつも子ども達に本を読んであげたかな?」でした。答えは「NO」...。育児・家事・仕事と大忙しを理由に、読み聞かせはずっとしていませんでした。

講演の冒頭、絵本は読んでもらうもの・楽しいものだと大谷先生はおっしゃいました。確かに、絵本を読んでもらっている時の子ども達の表情は内容によって一喜一憂。絵本の様々な場面で嬉しそうだったり、悲しそうだったり。まるで、自分が絵本の主人公にでもなったかの様です。でもそれが大切な事だと、大谷先生のお話を聞いて改めて思いました。

言葉を覚えたり、色々な感情を抱いたり絵本は子ども達の成長を支えています。今後は忙しい手を止めて、ゆつくりとした気持ちで子ども達に絵本を読んであげようと思えました。たった数分でも、子ども達と同じ風景・感情を共有する事が出来る読み聞かせ。私も子どもが興味を持った絵本を、早速探してみようと思えました。



しあわせの星保育園 保護者 松尾 悠



今回初めて保護者対象の研修会に参加しました。テーマが絵本に関する研修会だった為、子どもと一緒に参加されている保護者もおられ、絵本にとっても関心を持っていただくと感じました。

大谷朝先生が一番伝えなかったことは、絵本を聞いている子どもとその絵本を読む大人が楽しみを共有することが大事であるということ、子どもが絵本を聞きながら絵を見て自ら主人公になることが大切だということをおっしゃっていました。

絵本を読み終えた後、よく「どうだった?」「○○がどうなった?」と尋ねたりしますが、その行為は絶対にしてほしくないとおっしゃっていました。

子どもに感想を求めてしまうと、せっかく主人公になりきっていた子どもの感情が大人の一言で客観的に見てしまうことになるからです。

私自身もよく読み終えた後に、もう一度あらすじを伝えたり、感想を求めてみたりすることがあるので、気を付けようと思えました。小学生の高学年になると客観的に読むことが増えるそうです。だからこそ、幼児期には客観的ではなく主観的に話を楽しむ力を育むことが大事であり、大人がそのような読み聞かせをしていくことが大切だということが今回の研修でわかりました。今回の研修に参加させていただき、ありがとうございました。

隅田保育園 保護者 武藤 麻美



以前から読書をさせる事は、字を学び言葉を知る大切な事だと思っておりました。しかし大谷先生は与えるだけでなく必ず読み聞かせを行ってほしいとおっしゃっていました。理由は大きく分けて二つ有り、一つ目に読んでいる私たち親との共有体験を通し、コミュニケーションを取る事ができる。二つ目に耳でストーリーを知り、目で絵(物体)を知る事により主人公と一体化し、子ども自身が主人公の体験を行う事ができる。例えば、私たち大人にも映画やドラマに入り込むという経験があると思います。ただ字幕のみの外国の感動する映画より、日本語の感動する映画やドラマの方がより自分の経験と重ね、主人公の気持ちと一体化し、涙する事があるのだと思います。子ども達は人としての経験が大人より少ない分、絵本での犬や猫などの動物の気持ち、車や電車の気持ちと一体化しやすと思います。その事により人として大切な他者への思いやり、考える事、感じる事を豊かなものにし、自己の形成に繋がると先生の話を伺い感じました。私たち母親は、仕事に育児、家事と毎日時間に追われ、子どもとコミュニケーションを疎かにしがちになってしまいます。しかし絵本は年齢問わず、5分程度で子どもの成長の手助けになるのであれば、まずは無理をしない程度に絵本を手にとってみようと思えます。講演に出席させて頂き、親として「子育てとは」と考えさせられるいい時間になりました。ありがとうございました。

「次世代を担う皆さんへ」

広報調査部 理事 井上正志

～ITOS～

私の保育園では、縁があつて一緒に保育の仕事に携わることになった職員には立派な社会人として自立出来る為に仕事を通じていろいろな事を教えています。

皆さんは中島みゆきの「糸」という歌をご存知ですか。歌詞の中にある「縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布はいつか誰かを…逢うべき糸に出逢えたことを 人は仕合せと呼びます」のように保育園の中の人間関係もタテとヨコの関係が良好だと安心して働いて、保育に力を発揮することが出来ます。

保育園はいつも出会いと別れがあります。職員には一度就職したらできるだけ長く一緒に仕事が出来ることが望んでいます。

～広き門～

今秋、どの保育園も平成29年度新規採用試験の真最中。

マスコミ等で保育士不足が取り上げられて数年たちます。東京や福岡など都市部は待機児童が増加し、行政が解消を図る為保育園を新設・増設しただけで益々保育士が必要となりました。

私は園長として開園前から職員の採用に携わってきました。その間学生の気質も変わり、総合学習・ゆとり教育の中で育った人はあらたな価値観を持っていると感じます。どうしたら保育園の理念に共感し、同じ保育感を持った人を見つめるか苦慮しています。



今、就職市場は売り手市場で、一人の保育士さんに5ヶ園以上の保育園・幼稚園から求人がある時代です。本稿はいかにして保育園が望む人材を確保し、一人前の保育士を育てていくか提案します。資料として福岡市と、福岡市保育協会広報調査部が共同で

行っている指定保育士養成施設等訪問調査及び、就職支援・相談会の報告書より引用させていただきます。

～出会い～

毎年、保育協会主催で6月に福岡市都市圏の保育士養成校(短期大学・大学・専門学校)を対象に就職説明会を行ってきました。一番多い時で九州各地から9000人を超す学生が参加されたこともあります。今年はアークス福岡で7000人を対象に実施しました。又、新たな取り組みとして保育協会青年部が中心となり、平成27年10月から就職フェアを始めました。28年度は6月の就職説明会の後と9月に行い、多くの学生さんが参加され多くの出会いがありました。後日、保育園訪問や実習等で採用まで結びついた例もたくさんありました。

事前に学生さんはホームページで情報を集め、口コミや就職の資料を見て候補の保育園ブラスをピンポイントで訪問していました。これからは保育協会として学生さんにインターネットなどでタイムリーに情報発信し、保育士養成校の教員・就職担当者と連携していくことが重要と考えます。

～羊の心・羊の心臓～

私は自園の採用試験や正規実習や実習演習等で学生さんと話す機会が多くあります。又、保育協会の広報調査部の理事として保育士養成校に伺い、就職支援・相談会で説明をしたり、質問に答えました。

全般的な傾向として、保育園・幼稚園に就職を希望する学生さんはまじめで羊のようなやさしい心を持った人が多いように感じます。子ども好きは当然として、保育士として保護者にも好かれ、同僚ともコミュニケーションがとれると思います。

ただ心配なことは人に採られた経験が少なく、ストレスに対する耐性が弱いことです。仕事は最初上手いかなんか当たり前です。しかし、今の学生さんは挫折や失敗・絶望の経験が少なく、逆境に弱い人が多いと感じます。

新人職員には園全体であたたかく見守り、親身



になつて面倒を見ていただくようお願いいたします。

ここで養成校の担当者からの意見を紹介します。

「近年、優秀な学生であつてもプレッシャーに弱い。うまく支えて自信を失わせないように育てていただきたい。」

「対人関係やストレスコントロールが弱く、中には社会常識に欠けている学生があり、学科でも指導している。保育者としての指導とともに社会人としてのマナー指導等もよろしくお願いしたい。」

～学びの場～

多くの養成校から単位実習先として多くの学生さんを受け入れられていると存じます。

保育を担う将来の保育士の卵をいかにして保育園・幼稚園に就職してもらうか、大事な使命が私たちにあります。現場の先生方には多忙な業務の中、負担となりますが後継者を育てる為に何か協力をお願いします。

実習指導の専門的なことは省きますが、養成校から望むこと、意見をお伝えします。

「楽しいだけの実習でなく、出来ないところをしっかりと指導・助言していただきたい。」

「実習の中で、子どもの前に立つ責任感を感じさせていただきたい。」

「実習生の前で園内の不満などを言わないでほしい。」

～仲間いっしょ～

現在、労働集約型の代表である保育士・介護士・看護師は求人難が続いています。新聞やニュースで処遇面や労働環境、責任の重さなどが強調され、社会にとって大切な仕事・役割であることが伝えられています。人を支える医療・福祉はもつと感謝され、社会的ステータスを上げられるべきと考えます。保育士は日本の将来を担う子どもたちに養護・教育を通して人間としての基本的な力を授ける大切な役割があります。誇りをもって仕事をしてほしいと心から願っています。

福岡市では待機児童解消のため、毎年



少子高齢化が進み社会構造も変化し、保育園に求められることが増加しています。次世代を担う保育者を育成し、魅力ある職場づくりを行い、保育を通して社会に貢献することが私たちの使命です。一緒に頑張ります。

～人の財～

厳しい就職戦線の中、幸いに保育士として新規採用した人材をいかに育てるかが保育の質を高める鍵となります。

私は人は意志をもって育てないと保育園が望む人材は育たないと言っています。

「手取り、足取り、手塩にかけ」温かく見守り、先輩から後輩へ仕事の手順や伝統を受け継いでいく必要があります。

ここで養成校から望むこと・意見をお伝えします。

「実戦経験の少ない新卒者は保育者としても未熟であり、即戦力としての実力・人格とも伴わないので、せめて1年間は温かく見守り育ててほしい。」

就職フェア開催

就職フェア担当
高美台保育園 古賀圭一郎

9月11日(日)アクロス福岡イベントホールにおいて、6月に続き本年度第二回目の就職フェアを開催しました。市内保育園76ヶ園がブースを出し、福岡市保育士支援センターも出展し各園それぞれ工夫を凝らしたブースとなり賑やかな雰囲気、楽しく明るく保育園の魅力発信が出来たのではないかと思います。出展していただいた各保育園の皆様には心より御礼申し上げます。
フェア終了後に回収しました来場者及び出展園アンケートを基にご報告いたします。

【来場者アンケートより】

①来場者の構成
前回に比べ大学4年・短大2年の来場者比率が下がり、その他(既卒者・潜在保育士)の比率が大きく増えました。恐らく実習時期と重なっている為、学生の来場者が減少したことが要因と思われるます。

②参加者の目的
前回は「保育園に就職したい」「就職の参考のため」という設問に対してはほぼ同率の答えでしたが、今回は「保育園に就職したい」の回答が6割を超え、保育園に就職するために各園を見極めに来た参加者が多かったように思えます。

③出展ブースの数
76ヶ園の参加園に良い意味で「多い」との回答が7割ほどありました。ただし、市内各園がバラバラの配置だったので参加者に戸惑いがあったようです。もう少し配置図などの改善が必要と思われるます。また、区毎の参加園数にはばらつきがあったため、特定の地区で就職園を探している学生等には物足りなさがあったかもしれません。



76ヶ園の参加園に良い意味で「多い」との回答が7割ほどありました。ただし、市内各園がバラバラの配置だったので参加者に戸惑いがあったようです。もう少し配置図などの改善が必要と思われるます。また、区毎の参加園数にはばらつきがあったため、特定の地区で就職園を探している学生等には物足りなさがあったかもしれません。

④フェアを知ったきっかけ
今回も学校を通じての参加奨励が主力となりました。今後も養成校との連携は強化すべきだと思います。また、SNSでの参加申込みが前回に比べて倍増しており、今後も来場者増加のためのツールとして充実していく必要があります。

⑤その他
前回では7割程が事前に話を聞きたい園があると回答していましたが、今回は8割を超える方が聞きたい園があると回答しています。6月のフェア、実習、協会の養成校訪問を経て、特定の保育園に関心を持って参加している方が増えているようです。一方、「印象に残った保育園がある」と答えた方が前回より1割減りました。参加者側の選考基準も明確になっているためと思われるます。

※来場者アンケートから見えてきたもの
参加者の数が養成校申込みとWEB申込みを合わせた事前申込数250人に満たない200名程度に留まりました。実習時期と重なる養成校からの参加は厳しかったかもしれませんが、昨年の10月後半の開催時期では遅いという判断での9月開催だったので致し方ないと思えます。ただ、6月のフェアよりも参加者の意識は高く感じられ、参加していただいた方の保育園就職の一助となったのではないのでしょうか。保育園への就職者数を増やしていくために、今後もより多くの参加者を募りたいと思います。そのためには養成校のスケジュールが懸案事項となるので、養成校側との早期のスケジュール調整や協会から何らかの要請をすることも今後の課題ではないでしょうか。また、アンケート設問もフェアが定着し始めています。



参加者の数が養成校申込みとWEB申込みを合わせた事前申込数250人に満たない200名程度に留まりました。実習時期と重なる養成校からの参加は厳しかったかもしれませんが、昨年の10月後半の開催時期では遅いという判断での9月開催だったので致し方ないと思えます。ただ、6月のフェアよりも参加者の意識は高く感じられ、参加していただいた方の保育園就職の一助となったのではないのでしょうか。保育園への就職者数を増やしていくために、今後もより多くの参加者を募りたいと思います。そのためには養成校のスケジュールが懸案事項となるので、養成校側との早期のスケジュール調整や協会から何らかの要請をすることも今後の課題ではないでしょうか。また、アンケート設問もフェアが定着し始めています。

鑑み、毎回同じ設問ではなく、園側や参加者により良い情報を提供し次に繋がるような設問を考えていく必要があります。



【参加園ブースアンケートより】
アンケート回収 72ヶ園
ブース来場者 1ヶ園平均12名
最多 24名
※ブースアンケートより
今回一番多く寄せられた意見は、「開催時間」に関するものでした。200名の参加者の8割を超える方が、午後1時過ぎまでの来場となったため、それ以降の来場者が少なく、会場が閑散とした雰囲気となりました。フェアの回数を重ねる毎に来場者の動向も見えてきましたので、時間の短縮や終了時間の繰り上げなど、効率の良い時間設定が今後の課題となりました。



今回一番多く寄せられた意見は、「開催時間」に関するものでした。200名の参加者の8割を超える方が、午後1時過ぎまでの来場となったため、それ以降の来場者が少なく、会場が閑散とした雰囲気となりました。フェアの回数を重ねる毎に来場者の動向も見えてきましたので、時間の短縮や終了時間の繰り上げなど、効率の良い時間設定が今後の課題となりました。

併当で運営をお願いし、会場費以外の人件費等のコストを極力抑さえ、出来る限り低い金額設定にして、たくさんのお園に出展いただきたいという趣旨からお願いしている金額です。次回フェアにもたくさんのお園が参加していただく事を願っています。
「お金を出して参加するメリットがない」という意見もありました。確かに保育士不足の中、対費用効果の観点で考えれば、採用に繋がらなければ意味はないかもしれません。しかし、このフェアを開催する第一の目的は「保育園の魅力・保育士のやりがい」の発信なので、フェアに出展し、来場者と直に保育の話が出来たこと自体がメリットではないでしょうか。一方、「来てくれた7人の方針などじっくり説明できたのは貴重」という意見もあり、この時期に保育士になりたいと考えている方に、自園の説明や保育の魅力を伝えられたことを喜んで下さった園も多数ありました。いずれのご意見も、今後のよりよい運営に生かしていく貴重なご意見として認識してまいります。保育園の魅力伝えることで、保育士になりたい人の裾野が広がるようなフェアを目指していきたいと思えます。



併当で運営をお願いし、会場費以外の人件費等のコストを極力抑さえ、出来る限り低い金額設定にして、たくさんのお園に出展いただきたいという趣旨からお願いしている金額です。次回フェアにもたくさんのお園が参加していただく事を願っています。

最後に、アンケートの設問とは別に、運営スタッフに対しての感謝の言葉を添えていただいた方が多く、その労いのお言葉の数々に、それまでの苦労が報われた思いでした。ご多忙の中、園をあげてのご参加をいただきまして先生方、本当にありがとうございました。ご多忙の中、園をあげてのご参加をいただきまして先生方、本当にありがとうございました。ご多忙の中、園をあげてのご参加をいただきまして先生方、本当にありがとうございました。



最後に、アンケートの設問とは別に、運営スタッフに対しての感謝の言葉を添えていただいた方が多く、その労いのお言葉の数々に、それまでの苦労が報われた思いでした。ご多忙の中、園をあげてのご参加をいただきまして先生方、本当にありがとうございました。

保育は、今

福岡市保育協会広報調査部長 西尾達

はじめに

みなさんは、「ロボコップ」という映画をご存知ですか？1987年に公開されたアメリカ映画です。殉職した警官の遺体を使い、「ロボコップ」という無敵のサイボーグ警官が登場します。しかし、脳だけは生きていて人間としての感情が残っている主人公が活躍します。映画は大ヒットし、続編の「ロボコップ2」や「ロボコップ3」が製作され、のちにテレビシリーズやアニメにもなりました。私は1987年の第1作をリアルタイムで見ました。その時は、本当のロボコップになり切れない主人公の複雑な思いに興味を持ち、近未来を描くSF映画として楽しめました。しかし、2014年にリメイク版が作られ、久しぶりに1987年版と合わせてみるうちに、違う視点から「ロボコップ」という映画を考えるようになりました。

それは、規制緩和という視点です。ロボコップを開発したのは警察ですが、この警察は、営利を目的とする企業が運営しているのです。市民の生命と財産を守る警察の仕事がこのようになっていいのだろうかと思いました。もちろんこれは映画の世界で、かなり誇張されているのかもしれませんが、規制緩和の究極の世界が描かれていました。

私は今、規制緩和という言葉を使いましたが、規制緩和とはいったい何でしょう。規制緩和論者は、次のように言っています。「日本経済が活力を失い、成長力を衰弱させているのは、すべて規制があるからだ。」と。残念ながらこうした流れは、今ほとんど日本の社会の中に広がっています。そして、社会のセーフティネットといわれているところが大変危うい状況になってきています。※参考文献 内橋克人/ジェーン・ケルシー/大脇雅子/中野麻美『規制緩和 何をもたらすか』(岩波ブックレットNo.458)

深刻な保育士不足

保育の世界では、平成27年度から新しい制度が導入されました。福岡市保育協会では、全国の仲間と力を合わせて、国および自治体による保育に対する公的な責任の堅持を守るように運動をしました。結果、児童福祉法第24条1項は残り、保育園は新制度の中で保育園として存続することができました。し

かし、新制度の下、様々な問題が押し寄せられました。その中の一つが、本稿のテーマ、保育士配置基準緩和の問題です。この問題の背景には保育士不足問題があることは否定できません。保育士の不足は全国的な深刻な問題です。福岡市においても例外ではなく、4年前より、福岡市と協力して、福岡都市圏の保育士養成校を訪問し、就職担当の方と話したり、学生に直接保育園の良さを語りかける取り組みをしてきました。しかし、保育の受け皿つくりのため毎年保育園の新設・増設が続き、また、離職者の増加もあり、保育園では保育士の採用に四苦八苦しています。4月1日に保育士が不足し、定員割れを起こしている保育園もあります。安倍首相は臨時国会の所信表明演説(2016年9月26日)において、「保育の受け皿整備を加速します。小学生の放課後の受け皿づくりも、学校施設を活用し、全国で展開します。子育て支援を拡充することで『希望出生率1.8』に向かって、歩みを進めてまいります」と述べました。保育についての所信はわずか一行だけです。あれだけ一億総活躍社会を目指すため、女性の社会進出を呼び掛けているのに、大幅な後退と言わざるを得ません。さらに、「保育の受け皿を作る」、つまり保育の量的な拡大は訴えているのですが、保育の質の確保については一言も話していません。

ここで思い出すのが、新制度における全国で8時間保育から11時間保育に拡大するにあたり、その費用の問題です。3時間の保育時間の拡大には、3000億円以上の費用が必要とされました。しかし、その1割の300億円しか財源は確保されませんでした。新制度は財源の確保がままスタートしてしまつたのです。このことが直接保育士不足につながっているのは今後検証しなければなりません。保育士の処遇を十分に上げようとせず、保育士不足を叫んでも、それは本末転倒というものでしょう。

保育士配置基準の緩和とその経緯と問題点

では、保育士の不足をどのように解決しようとしたのでしょうか？そこに登場したのは、保育士の配置基準を緩和するという方法でした。保育士が不足しているのなら、保育士の資格のない人でもOKというものが今回の解決策でした。

これは、保育の質を後退させるいわば「禁じ手」です。その問題については後述するとして、この問題が出てきた経緯と内容を述べます。まず経緯から。保育士配置基準問題の背景には、規制緩和の流れがあります。結果として規制緩和をせざるを得なくなったのか、それとも意図的(あるいは便乗して)規制緩和をするようにしたのかは、わかりませんが、具体的には、厚労省が出した次のような



通知がスタートしました。初めに出示されたのは、平成27年3月19日付の事務連絡(あて先は、自治体の保育担当者)でした。その内容は、必要な保育士の確保が難しい状況にある場合、特例的に、平成27年度の間は、朝夕の時間帯に、保育士1人に限り、当該保育士に代え、保育士でないものであつて保育施設における十分な業務経験を有する者を配置する取り扱いやむを得ないと考える、自治体において配慮をお願いしたいというものでした。

この事務連絡を受け、福岡市は平成27年の5月園長会において、平成27年度に限り、朝夕及び延長保育の時間帯の児童が少数である時間帯については、2名の保育士のうちの1名については、保育士の資格を持たないが、十分な業務経験を有する者(いわゆる保育補助者)の配置に代えて差し支えないと話しられました。ここまでは厚労省と同じです。しかし、福岡市は、「児童が少数である時間帯」について、「朝7時から1、2歳児6人を保育する場合など、2名を配置する場合をさし、かつ児童の数は10人未満の場合をいう」と提案されました。これは、緩和政策に対し制限をかけたことになりました。なお、福岡市においては、(平成27年4月1日時点で)、17カ園22人の保育補助者がいることも話されました。

翌年の平成28年度の配置基準緩和について厚労省は、平成28年2月28日にさらに踏み込んだ通知を出しました。平成27年度の緩和措置に、幼稚園教諭及び小学校教諭並びに養護教諭の活用もできることを加えたのです。さらに気になるのは、通知文の前書きに、保育士の確保は喫緊の課題であると述べた後、「保育における労働力需要に対応するよう、要件の質を落とさず、保育士が行う業務について、要件を一定程度柔軟化することにより、保育の担い手の裾野を広げるとともに、保育士の勤務環境の改善(就業継続支援)につなげる必要がある」としています。「要件を柔軟化して担い手の裾野を広げる」、なんとという巧みな表現でしょう。また、前書きの終わりには、「本通知は、技術的な助言であることを申し添える」と書かれています。つまり、「強制するものではありませんよ」、言い換えれば、

「そちらの責任で行ってくださいよ」ということとでしょう。

さて、この通知を受け、福岡市は平成27年度と同様の内容を今年9月の園長会で提案されました。ただし前年と異なる点がありました。ここでは3点だけ述べます。一つ目は、昨年度あった「少人数は10人未満とする」という但し書きが削除された点です。前年度提案された「保育士の確保に苦労し、やむを得ず保育補助者を導入した園もあるでしょう、しかし、児童の数は10人未満にしてください」というのは、福岡市のまさに良心の部分であつたと思つています。それがなくなりました。二つ目は、これを条例改正して取り入れるという点です。このことは、緩和措置の固定化につながることを大変危惧します。三つ目は、提案された理由についてです。それは、「2人配置のうち1人を補助者にすれば、職員シフトの緩和につながるから」というような緩和策を出しているのだ」というのです。この点は、国も同様のことを言っています(保育士の勤務環境の改善)。おそらくこれをそのまま使つたのでしようが、保育園の現場を全く知らない発想だと思つています。確かに物理的には保育士のシフトの緩和につながるでしょう。しかし、2人のうち資格のある相方のプレッシャーはとも大きくなることに気づかないのでしようか。

おわりに

最近読んだ本に、「ルボ保育崩壊」の著者小林美希さんが書いた「ルボ看護の質」があります(2冊とも岩波新書から発行されています)。医師が不足し2015年10月から、医療行為のうち38行為について、看護師が行うことを許可したということが書かれていました。これを任せられた看護師へのプレッシャーは大きくなつてきているということでした。小林美希さんは前著「ルボ保育崩壊」の中で、保育現場の大変さを書かれていましたが、看護師の世界でも全く同様のことが起こっていることを知りました。医療や保育(教育も)など、命を預かり、人を育てる世界では、規制を緩和すべきではありません。

最後になりますが、福岡市内のある保育士養成校の先生と保育士配置問題について話す機会がありました。先生は、「こんな政策は困ります。保育の資格を軽んじていますね。」と話されました。そのことを聞き、保育園は、保育を話さるところであり、決して託児をするのではないと強く思いました。このような施策が当たり前になつていけば、日本の保育は、逆戻りしてしまいます。医師が不足したからといって、資格のない医師にオペを任せるとは人なんかいないはず。保育とは何か、保育士の資格とは何か、今、大きく問われています。

NEW!! 新園紹介

第二オリーブ保育園

園長 久保田 有希

定員 120名

当園は、12年の歩みのあるオリーブ保育園の姉妹園としてこの4月に120名定員で開園いたしました。

海に面した良好な自然環境が豊かな福岡市の最北端、東区三吉にあります。園舎の殆どが地域の方の畑に囲まれ土や花、緑香るところです。また、福岡県の名産品「あまおう」発祥の地である「いちご畑」が目の前にあり、子ども達がフェンスに顔を押し付けながら「おはようございます」「なんしょーと。」とお話している光景が毎日みられています。

子どもは見て学び、真似てその行動を獲得する。就学前の子どもの学びは「遊び」の中にあります。遊びを中心とした保育の中で「がんばってるね」と過程を認める声かけと、「やっついでいよ」と興味・関心を見守り、「できたー」の瞬間を共にできることを大切にしています。

毎朝の園庭からは裸足で地を蹴って駆け回る力強い音が響いています。その逞しさを永遠に・・・職員一同願ひながら努めて参ります。



みらい保育園

園長 高邊 綾乃

定員 60名

平成28年4月に、南区筑紫丘に社会法人和聖会「みらい保育園」を開園いたしました。

みらい保育園は、南区の中心部にあり、西鉄大橋駅の西側に位置しており、近隣には、小・中・高・大学に囲まれた文教地区です。周りには綺麗に整備された遊具や緑に囲まれた筑紫丘中央公園・筑紫丘公園もあり、子ども達は手をつなぎお散歩に出かけ、季節の移り変わりを楽しむことができます。

あたたかい家庭的な環境のもと、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を整え、すべての子どもたちの無限の可能性を引き出せるよう努めています。

また、家庭とごきめ細かに連携し、共に泣き、笑い、喜び、感動することで豊かな心を育て、保護者との信頼関係を築き充実した毎日が送れるように、職員皆で力をあわせ日々努力して参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



にじのはな保育園

園長 末松 隼

定員 110名

平成28年4月1日に西区元岡地区に開園しました「にじのはな保育園」と申します。保育園の周りは、九大の西区移転に伴い開発中の地域で、保育園の前には九大に通じる大きな直通道路が整備中です。

にじのはな保育園では「一人ひとりによりよい環境を」という事を基本理念におき、日々の保育に職員一丸となって取り組んでおります。また保育目標を(一)思いやりのあるやさしい、そしてまっすぐな心をもった子どもに育てる。(二)自然を慈しみ共に協調して生きる力をもった子どもに育てる。(三)運動・音楽などの表現活動を通じて感性豊かな子どもに育てる。この三本の柱を軸にして子どもたちの健全で健康的な成長を促していきたいと考えております。

まだ開園したばかりで未熟な部分も多々あると思いますが、子どもたちの為、地域社会の為に日々努力していきたいと思っておりますので、ご指導・ご鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。



保育園および園児をさまざまなリスクからサポートします



保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

全私保連 保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップしています。また、それらを総合的に補償するセットプランもご用意しております。

園児総合保障 共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。保育者にとっては一般に比べて割安な掛金で補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先どうぞ。

(公社)全国私立保育園連盟指定・東京海上日動火災保険株式会社・三井住友海上火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

(引受保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社
(幹事保険会社) 担当課：公務第二部 公務第一課 TEL：03-3515-4133
(共同引受保険会社) 三井住友海上火災保険株式会社

このご案内は全私保連保険制度・園児総合保障共済制度の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款になりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

リレー回想

未来について

みやげ保育園 園長 時枝亮仁



「お孫さん？」や「息子さん？」という質問に、「はい、そうです」という御挨拶

を、私がこの業界に飛び込んだ約3年前に多くの方々にさせていただきました。時には、話が噛み合わないと感じ、よく聞いてみると、私の曾祖父の話がされていて、「私は曾孫です」と言い直すこともあり、その度にとっても深い歴史を感じることはありません。そもそも3年目の私が回顧するというのも申し訳なく感じますが、今年度より、みやげ保育園の園長を引き継ぎ、このような機会をいただくことで改めて歴史を振り返る機会となり、身の引き締まる思いで有り難く感じています。

タイプな先入観もあったのではないかと、前園長の祖母が回顧しております。職員の数もそれなりに準備しており、手の空いた職員が近隣のお子さんがいそうな家庭を訪問したり、園案内をポストに投函したりと勧誘に奔走したそうです。現在では定員230名の保育園になり、「ちよっと多いなあ」とか思うことがあったら（思っていないませんが）、この時の心情や苦労を想像しなければいけません。

当時のエピソードで、園児のお母さんが住むところがなくなると言うので、「お困りなら見つかると、数日後にトラック1台に家具一式を積んで保育園にやって来た・・・。今では考えられないような昔ながらのいい話もございませぬ。初めて私が参加した入園式で、「戦後の焼け野原から・・・。」という福岡市の保育園の歴史から話っていた前園長の姿に、最初は園児や保護者と一緒に「きよとん」としながらも、大きな尊敬の念を抱きました。開園後3〜4年を経て、ようやく定員の150名に達したそうです。地域密着に努めたことや、信頼を得るために日々の保育を懸命に努力し

たことは容易に想像できます。そのような時期に、初孫が男の子だとわかり、「長男は福岡生まれの跡継ぎ」という既成事実を作るため、臨月の母を飛行機に乗せて福岡で私を産ませたという祖母の執念（笑）を今ではとても感謝しています。

つい数年前まで、自分が園長を務めているとは全く考えてもいませんでした。保育園に入ってみて大人の物差しで物事が進んでいくことに、何か居心地の悪さを感じていました。私の幼少期、夏休みの20日間ほど埼玉から福岡へやってきて生活をするのですが、親戚の家に行く度にお腹一杯なのにおかわりを強要されて、山盛りの2杯目を渡されたことを思い出します。「保育とはどうあるべきか」と悩みながらの日々が続いています。

昔ながらの保育園」と評されることが多々ありました。変わらないことが美化されることへの違和感もあります。保育業界へ飛び込んだ際は新制度移行も控えた時期でもあり、現在もそして今後、保育園業界としては激動の時期なのではないかと思えます。このようなタイミングで事業承継できたことは、大きな誇りであり、また改めて身を引き締める思いであります。



前職までは他業界での勤務でしたが、そこで学んだことの1つが、風土づくりの重要性です。その会社は、職員が生き生きと働いていると評されることがよくありました。「意図せずとも頑張ってしまうている」「働いていることが楽しい」という感覚がありました。ネガティブな報道や情報が先行する保育士という職業に対し、「仕事への誇り」や「仕事へのやりがい」を感じることが、私の大事な役割だと強く思っています。「最近の若い人たちは・・・」などと良く耳に入りますが、20年前に私が入社した時にも言われていたと思います。時代の変化に寛容になり、人と人との違いを認め合いながら、変化し続ける保育園であることを目指し、過去に負けない新たな歴史を創っていきたいと思います。



「弾力」という語を辞書で引くと、「外力が加わって変形した物体が、その外力に抗してもとの形に戻ろうとする力。はねかえす力」と書かれています。今回の保育士配置基準問題で、国や福岡市は、「保育士配置基準の弾力化」といっていますが、辞書に書かれているような「元に戻る」という力は期待できるのでしょうか。否、一旦基準を緩めてしまえば、既成事実化して、それがスタンダードになるのは容易に想像できます。したがって、「弾力化」ではなく、「緩和」という言葉を使うべきです。

編集後記

「弾力」という語を辞書で引くと、「外力が加わって変形した物体が、その外力に抗してもとの形に戻ろうとする力。はねかえす力」と書かれています。今回の保育士配置基準問題で、国や福岡市は、「保育士配置基準の弾力化」といっていますが、辞書に書かれているような「元に戻る」という力は期待できるのでしょうか。否、一旦基準を緩めてしまえば、既成事実化して、それがスタンダードになるのは容易に想像できます。したがって、「弾力化」ではなく、「緩和」という言葉を使うべきです。

こんなことを考えながら、再び辞書を見ました。すると、「弾力」の解釈に次のようなことが書き添えてあるのに気づきました。「状況に応じて自由に変化・適応する力のこと」とも使われる。この意味で使っているとも考えられますが、保育士資格のない人を時間帯に制限があるとはいえず、保育士の一人としてカウントするのは、「自由な変化・適応」とは言えないでしょう。一般的には規制に縛られることなく、自由に活動することはとても大事なことです。人の命や保育（教育）に関するところへの「緩和」は、慎重であってほしいものです。（西尾）